

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立中友小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒836-0025

大牟田市中友町 1-20

E-mail nakatomo-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 77名 女子 80名 合計 157名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「地域とともに、未来につながる中友」をテーマに、一人暮らしの高齢者が多い校区であることや和菓子屋さんが多いという特色を踏まえ、生活科や総合的な学習の時間を中心に福祉教育や地域学習を柱に学習を展開している。

具体的には、①低学年では身近な地域の人に係わる学習 ②中学年では、校区や地域の環境・宝（遺産）に係わる学習 ③高学年では、地域の福祉に係わる学習 ④地域を元気にする活動 を行った。これらの学習や活動を通して、他者との関係性・社会との関係性を認識し、「つながり」や「かかわり」を尊重して、地域に対して自分たちにできることを考えたり、実践したりする児童を育てることを目標とした。

① 身近な地域の人に係わる学習（低学年）

○1 年「ひとつぶのたねから」、2 年「おいしい野菜をそだてよう」活科)

・地域の方を GT に招き、野菜の植え方や育て方などについて教えていただきながら、「野菜の種まき・苗植え・世話・収穫」までの体験活動を行った。

○1 年「むかしのあそびをたのしもう」（生活科)

・地域の方を GT に招き、昔の遊び（コマ、けん玉、お手玉など）を教えてもらい、ふれあいを楽しんだ。

②校区や地域の環境・宝(遺産)に係わる学習(中学年)

○3年生「保育園の子どもとふれあおう」では、校区内の保育園の子ども達との交流を通して、相手を思いやり、小さな園児に寄り添う遊びを考えることができた。

○3年生「おまつりをしらべよう」では、GT を招き、大牟田の代表的な「大蛇山祭り」について調べ、歴史や人々の願いについて理解を深めることができた。

○4年生「大牟田川調査隊」では、校区内の大牟田川に生息する生き物について調べ、環境を守るための行動を考え他学年や保護者への発信をすることができた。

○4年生「大牟田・中友 PR！キッズまんじゅうをつくろう」では、大牟田にある世界遺産(石炭関連施設)について学習し、石炭と共に発展してきた大牟田の町の歴史や食文化(饅頭)を知り、地域の良さを伝える方法を話し合った。10月には、大牟田物産展で九州北部豪雨災害の被災地への募金活動を行い、募金していただいた方に「キッズまんじゅう」を配布し集まった募金を被災地へ届けることができた。

③地域の福祉に係わる学習(高学年)

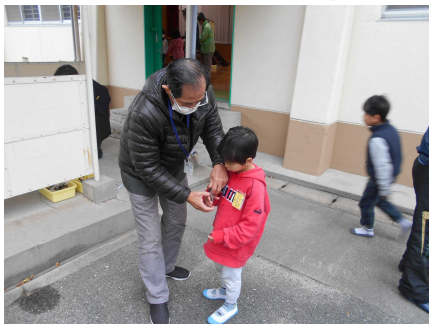
○5年生「みんながつながる中友校区を目指して～子ども民生委員活動～」では、一年間を通して、民生委員さんと共に、地域の高齢者宅を訪問したり、SOS ネットワーク模擬訓練に参加したりした。7月には共同募金会の方を GT に招き、「寄付の教室」Ⅰを行って、地域の福祉に役立つ募金の仕組みを知り、11月に赤い羽根共同募金活動を行った。3月上旬には「寄付の教室」Ⅱを行い、実際の募金がどのように分配されるかを知り、自分たちの行動が地域の福祉活動に貢献できた喜びを味わうことができた。

○6年生「高齢者福祉について考えよう」では、高齢者施設を訪問し、認知症の方やデイサービスに通う方々とふれあい、会話を交わしたり肩もみをしたりして交流する中で、自分達も温かい気持ちになり、人と関わる充実感を味わうことができた。

④地域を元気にする活動

・4月→二十日えびす(5年生:キッズまんじゅうの発表、踊り「祝歌」)

・5月～3月→十日市(校区内の銀座商店街にて、毎月学年の出し物や学習した物の展示を実施)



① 昔のあそびを楽しもう



② 大牟田・中友 PR！キッズまんじゅうをつくろう



③ 赤い羽根共同募金活動



④ 地域を元気に「十日市」

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p>書籍</p> <ul style="list-style-type: none">・ 副読本「わたしたちの大牟田」・ 絵本「くしゃくしゃ笑顔とや・さ・し顔」・ 大牟田検定ガイドブック <p>ウェブサイト</p> <ul style="list-style-type: none">・ 大牟田近代産業文化遺産 HP など
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESD 全体計画の中に「ユネスコスクールとして、地域にかかわりを持たせながら ESD の充実を図る」との推進方針を明記し、「福祉教育」「地域学習等」「環境教育」「国際理解教育」の学習活動・指導方法・指導体制・評価を各教科や特別活動・道徳教育と関連させた指導計画を定めている。

また、全学年、ESD カレンダーを作成し、年間を通して見通しをもった取組を行い、学期ごとに教育活動の評価を行って指導の見直しを図り、年度末の教育課程編成会議において、次年度の実践に向けた指導方法の工夫改善について話し合う時間を設けている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各学年で ESD カレンダーを作成し、各教科や総合的な学習の時間で、どの領域をどの単元で取り上げ学習していくかを確認して実践にあたっている。さらに教室の廊下掲示板には、ESD コーナーを設け、ESD カレンダーを常時掲示するとともに、学習内容の分かる写真や児童の作品などを関連させて掲示しており、児童の関心を高める環境整備に努めている。また、「子ども民生委員ガイドブック」などを作成し、外部機関との連携や学習の進め方について共有化を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

【内部評価】

- ・学期末に教育活動評価を行い、成果と課題を出し合っている。教師による評価とともに、児童へのアンケートを行い、数値や児童の感想など記述に基づくものも併せて評価を行っている。

【外部評価】

- ・学校関係者評価や学習に GT として来ていただいた時の評価

○成果

学校の特色が生かされていて質の向上が見られる。

●課題

継続することとプラス 1 の取組の検討

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

ESD の取組をユネスコスクール記念集会や学習発表会で、地域や保護者の方へ発表している。また、学校の HP や M ボード、学校便りで活動報告を随時行っている。また、ユネスコスクール研修会やユネスコスクール全国大会で本校の取組を報告する機会もあり、市内外の先生方への発信をすることもできた。これらのことを通して、児童が自信を持つことができ、教師の方も意識を高め、学校全体で取り組んでいることへの価値付けができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）（２００字程度）
※チェック事項 2-3 に対応

○地域コミュニティとしては、校区社会福祉協議会・地域包括センター・高齢者福祉施設・校区内保育園等と連携した福祉学習を行った。
○校区内の商店街と連携して、全学年で十日市へ参加し、発表や出し物を披露した。
○校区内の和菓子店の協力を得て地域学習（食文化）を行った。
○中谷医工計測技術振興財団の科学教育振興助成を受けて、駿馬北・駿馬南・明治・吉野小学校と連携して、環境教育の学習を進めた。「ネイチャーガイド・オオムタ」の方を GT に招き、水質調査を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

同じ市内のユネスコスクールである駿馬北・駿馬南・明治・吉野小学校と連携して、環境教育の学習を進めた。児童同士の交流ができなかったのが課題である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

5年生の「子ども民生委員活動」では、児童が民生委員さんと一緒になって地域の方に関わることで、相手に喜んでもらう（声かけなど）だけでなく、自分たちも温かい気持ちになるという双方向の関係に気づくことができた。また、民生委員さんも他の地域（市外）で、この取組を報告することが増え、学校と地域が一体となった取組が注目されている。日常的には地域の方に挨拶できる児童が増えている。さらに、SOS ネットワーク模擬訓練には保護者の参加も増えており、教育活動や地域・福祉への関心が高くなってきた。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

活動計画

- ・ 1年生（生活科）・・・「友だちや身近な人たちとなかよくなろう」
- ・ 2年生（生活科）・・・「レッツゴー町たんけん」
- ・ 3年生（総合）・・・「心の目を育てよう」
「保育園の子どもとふれ合おう」
- ・ 4年生（総合）・・・「大牟田川調査隊」
「大牟田・中友PR！キッズまんじゅうをつくろう」
- ・ 5年生（総合）・・・「みんながつながる中友校区をめざして
～子ども民生委員活動を通して～」
- ・ 6年生（総合）・・・「高齢者福祉について考えよう」
「感謝の気持ちを伝えよう」
- ・ 全学年・・・「十日市」（銀座商店街）への参加